ミラノ日本人学校の現地理解教育への取り組み

前ミラノ日本人学校　教諭
栃木県大田原市立親園小学校　教諭　室　井　雅　史

キーワード：現地理解教育，イタリア語，生活科，総合的な学習の時間

１．はじめに

ミラノ市は，アルプス山脈の南，ポー川流域に広がる平野ロンバルディア地方の西部に位置する。イタリア共和国の第２の都市として，古くから音楽，絵画，建築などの優れた芸術が人々を魅了してやまない。また，銀行や商社がひしめく経済の拠点でもある。ミラノコレクションでも知られるように「ミラノ＝ファッション」とイメージされる方も多いかと思われる。このように，頑なに古い文化を守り伝えながらも，常に新しい文化に目を向け発信していこうとする様子は，街のあちらこちらで見られる。

学校のあるミラノ市には，市のシンボルであるドゥオモなど，歴史を誇る建築物やレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を代表とするような芸術作品があふれている。また，北側には，山頂に真っ白な雪を被ったアルプスの4000m級の山々を望むことが出来る。本校の子どもたちは，この豊かな文化や自然，明るく陽気なイタリアの人々に囲まれて，元気に学んでいる。本物を見たり，聴いたり，触れたり，味わったり，交わったりと，五感を通して，異国の文化を身近に体験している。その反面，日本文化を求めても触れる機会が乏しく，日本に強い憧れを感じている。

ミラノ日本人学校は，昭和51年に設立され，本年度で33年目を迎えた。現在の在籍児童生徒数は，小学部51名，中学部24名，合計75名（平成20年５月時点）である。現地理解教育として，イタリア語の学習を行っている。社会見学や総合的な学習の時間での農場・工場見学，イタリアの自然の中に身を投じる体験学習などでは，実践的なイタリア語の学習の場だけでなく，イタリア文化に触れる貴重な機会となっている。また，現地校を訪問したり招待したりして，同年代のイタリアの子どもたちと互いの文化を教え合う，交流学習を盛んに行っている。

本校は，「日本と世界に生きる子」を教育目標に掲げている。私たちの根底にある日本人としての精神や誇りを持ったうえで，イタリアに限らず世界で活躍できる子どもになってほしいとの願いが込められている。

本稿では，私が在任中のミラノ日本人学校小学部１年生の現地理解教育として実施した現地小学校との交歓会の実践を紹介する。

２．活動の実際（小学部１年生交歓会）

(1) 目的

・現地校の児童と交流を通して，互いに親しみ仲よくする心や態度を育てる。
・イタリア語で自己紹介をしたり，劇をしたりする活動を通して，イタリア語で伝えることの喜びを味わい，更に関心をもって学習に取り組もうとする態度を育てる。

(2) 指導計画

①事前指導

・進行の言葉・・・イタリア語
・歌の歌詞の伊語訳と練習・・・イタリア語，生活科，朝の会
・自己紹介・・・イタリア語

・学校めぐり・・・イタリア語，生活科
・劇の台本と練習・・・イタリア語，生活科
・ゲーム「フルーツバスケット」・・・イタリア語
・おどり「からだのおどり」・・・イタリア語
・おみやげ「フルーツカード」・・・生活科，朝の会

②交歓会当日（３時間）…実施計画参照

③事後指導
・交歓会の振り返り・・・生活科
・活動カードの記入・・・生活科

(3) 実施計画

①日　　時　　2007年１月30日（火）

②対象児童　　ミラノ日本人学校小学部１年生11名

③交 歓 校　　コッケッティ小学校１年生25名

（Lo scambio interculturale con la 1ª elementare dell'Istituto Cocchetti）

④会　　場　　ミラノ日本人学校（図書室《１～２校時》，室内運動場《３ ～４校時》）

⑤日　　程

時　刻	内　　容		場　　所
9：30	出迎え		玄関
9：40	歓迎のあいさつ		図書室
	歌「Pesciolino rosso」	CDラジカセ	
9：50	自己紹介	ボール	
10：15	おやつ	おやつ	
10：40	学校めぐり		校内
	劇の準備（担任）		室内運動場
10：55	劇「La Grande Rapa」発表	CDラジカセ	
11：15	ゲーム「フルーツバスケット」	フルーツカード	
11：40	おどり「からだのおどり」		
11：50	おわりのあいさつ		
	記念撮影	カメラ・三脚	
	見送り		玄関
12：00	片付け		

⑥準備

◇イタリア語の時間で準備
・自己紹介（あいさつ，名前，年齢，好きな果物）
・劇の練習（イタリア語の台本で）
・歌やゲームの説明
・からだおどりの練習
・進行の台本と役割分担

◇生活科の時間で準備
・劇の練習

・歌の練習
・プレゼント「フルーツカード」作り
・劇のお面作り
◇担任の準備
・児童の名札・・・フルーツカードに添付
・おやつの買出し・・・皿，コップ，紙ナプキン，お菓子，ジュース
・劇の道具類の準備・・・かぶセット，CDラジカセ
・会場のセッティング・・・図書室の机・椅子の配置　椅子：30脚，机：６つ
室内運動場，観劇用椅子の準備　椅子：30脚

(4) 交歓会記録

①歓迎

図書室で交歓会の意義や進行を確認していると，コッケッティ小学校の子どもたちが到着した。本校の子どもたちは，「先生，来た！」と，思わず驚く子，緊張のせいか硬い表情の子と様々であった。

図書室に迎え入れたコッケッティ小学校の１年生とミラノ日本人学校の１年生が向かい合い，まずは歓迎のセレモニーを行った。歓迎の言葉の後の「Pesciorino Rosso」を歌い終わるころ，ようやく緊張がほぐれだしたようだった。

②自己紹介

大きな輪になり自己紹介ゲームをした。音楽の流れている間にボールをまわし，音楽が止まった時にボールを持っている子が自己紹介をするルールである。名前と年齢，好きな果物を言うと「Anche Io!」とイタリアの子がつぶやきニコリと笑顔を見せる場面もあり，少しずつお互いのことを知ろうとする気持ちが盛り上がってきたようであった。

③楽しいおやつタイム

６つのテーブルに別れ，「おやつタイム」。日本人学校では，おやつの時間はないが，イタリアの学校にならい，交歓会では，おやつの時間を設けている。これもまた，交流のきっかけの場面である。本校の子どもたちが，もてなす役割として飲み物を運んだり，お菓子を勧めたりしている様子がうかがえた。食べながら，お互いの名前を聞きあったり，言葉を教えあったりしている姿が見られた。

④学校案内

グループ（本校児童２名，現地校児童４名）ごとに，校内を歩き回りながら，施設紹介をした。教室の入り口に昨年度の小学部卒業生が制作した表札があるので，言葉が多少通じなくても分かってくれたことだろう。グループの先頭を我が物顔で闊歩する子や廊下を静かに歩いてもらうために言葉をかけながら歩く子などグループにより違いがあるのも面白い光景であった。

⑤劇「La Grande Rapa」の発表

学習発表会で「大きなかぶ」を発表したが，その台本とは違うイタリア語劇だったので，子どもたちは，とても苦労しながら練習に取り組んできた。練習当初は，多くの子がイタリア語の台詞を言うだけで精一杯だった。その台詞を覚え，言葉に合わせながら身振り手振りを付けることは，日本語と言葉の並びが違うイタリア語では，更に，難しかったようである。

子どもたちは，緊張しながらも，とても良い発表ができた。多少発音がおかしいところもあったが，コッケッティ小学校の子どもたちは，本校児童の緊張感を察したのか，劇をじっと見つめ，一生懸命演じる姿に大きな拍手を送ってい。劇の発表後，ほっとした表情の子どもたちに私も大きな拍手を送った。

⑥ゲームとダンス

日本語とイタリア語でフルーツの名前紹介をした。2人1組で元気よくフルーツの名前を読み上げると，それに続いてイタリア人の子どもたちも声を合わせて言う。例えば，「Pesca si dice MOMO.」「MOMO!!」というように数種類のフルーツを紹介した。

フルーツの名前を一通り覚えたところで，フルーツバスケットをした。日本人は，イタリア語で，イタリア人は，日本語でフルーツの名前を言うルール。お互い不慣れな言葉ながら，ゲームを楽しむことができた。

ゲームの後は，「からだおどり」というダンスを輪になって踊った。簡単な歌詞に振り付けをした歌で，踊っているうちに誰もが笑顔になれるダンスである。

⑦お別れ「Ci vediamo.」

楽しい交歓会の最後。お別れのセレモニーでフルーツのネームカードをプレゼントすることを伝えた。そのカードを見て，日本語を知ってほしいと願いが込められている。

別れ際，仲よくなった友だちと記念写真をとった。誰もが満面の笑みの表情を浮かべ，楽しかった交歓会の思い出の一枚となった。

記念撮影後，コッケッティ小学校の先生の音頭のもと「お礼の歌」を歌っていただいた。日本人学校の校門を出てバスに乗る後姿を見送る中で，思わず涙を流す子もいた。言葉以上に心が通じ合っていたのだろう。純粋な子どもの心に私も感動させられた。

３．おわりにー課題と成果ー

交歓会が初めてである1年生の子ども達にとって，かなりの緊張感の中で交歓会が始まった。交歓会が進むにつれて，当初の緊張感も薄れ，子ども達同士の気持ちが心を通わせる場面が見られた。イタリア語の授業で学んだことをいかしながら懇親が深められた。

今回，子どもたちは，「自己紹介」「劇の発表」「フルーツの紹介」「フルーツバスケットの説明」等の活動を行うために多くのイタリア語を覚えた。大人である私から考えても大変な言語量があるように思えた。しかし，結果的に子どもたちはこれらの言葉を覚え，活動を次々とこなすことがでた。内容を理解するというよりもイタリア語の響きを感じ取ることができれば，今回の交歓会の目的は達成されたのではないかと思われる。

交歓会に限らず，イタリアの言語や文化に触れる校内外の学習によって，子ども達の国際理解の芽が育つ。イタリア語を使い，コミュニケーションが成り立った喜びが，次のステップに進む原動力となることだろう。